

授業科目名（必修）	建築設計製図Ⅰ		担当教員の実務経験	有		無
対象学科・学年	建築デザイン学科 1 年		開講時期	前期	後期	通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	288 時間		
< 授業の達成目標 > 1) 製図用器具の使用法と建築製図通則を理解させ、習熟させる。 2) 建築図面の内容を理解させながら、建築設計製図Ⅰでは特に木造の図面が描けることを基本におき、手書きによる製図ができるようにする。 3) 特に木造の構法を理解させ、各種図面及び詳細図を描くことができるようにする。 4) 建築物を設計し、各種の必要図面を手書きにより作図することができるようにする。 5) 透視図法を理解し、建築模型を製作することにより、建築を立体的に捉える力を養う。						
< 授業内容 > 1) 製図の基本と製図用具の使い方 2) 線の引き方と文字の練習 3) 透視図法によるパースの制作 4) 建築模型の制作 5) 敷地や必要諸室などが設定された課題による、木造の設計製図及び設計演習 (1)木造専用住宅(平面図・断面図・立面図・各伏図・矩形図・詳細図・仕上表)作成 (2)木造併用住宅(平面図・断面図・立面図・各伏図・矩形図・詳細図・仕上表)作成						
< 評価方法 > 1) 課題製図の作品実績を 8 0 % で評価する。 2) 課題製作への取り組みの意欲および進捗状況や提出状況を 1 0 % で評価する。 3) 授業態度や出席状況を 1 0 % で評価する。						
キーワード	木造・パース・モデル・エスキス・伏図・かなばかり					
教科書	「新しい建築の製図」（（株）学芸出版社）					
参考書	「建築設計資料集成」（丸善）「2 級建築士試験設計製図テキスト」					
関連科目	建築計画ⅠⅡ、建築 C A D 設計演習ⅠⅡ、建築一般構造					
連絡事項	周囲の建築物や国内および海外の特徴ある建築物に対して、常に関心を持つことが大切である。					

授業科目名（必修）	建築C A D設計演習Ⅰ		担当教員の実務経験	有		無	
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年	
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	94 時間			
< 授業の達成目標 > 1) ☒ADの概要を理解する。 2) 2次元CADを修得し、3次元CADを操作できる。 3) プレゼンテーション技術の修得 4) 各ソフト間データのやり取りの修得							
< 授業内容 > 主に課題を通して各種図面の作成を行う。 1) CADの概要と基本設定の理解 2) 木造住宅平面図、立面図作画 3) 鉄筋コンクリート造住宅平面図、立面図作画 4) 住宅設備機器の複写、反転、移動の操作 5) 木製、鋼製建具入力・床目地入力・円形階段入力 6) 木造住宅展開図作画							
< 評価方法 > 1) ☒時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を80％で評価する。 2) ☒業の態度や出席状況を20％で評価する。							
キーワード	CAD、JW_CAD、3次元CAD、データ変換、データ送受信						
教科書	「JW_CAD徹底解説」（エクスナレッジ）						
参考書	JW_CADマニュアル						
関連科目	建築設計製図ⅠⅡ、建築CAD設計演習Ⅱ						
連絡事項	定期試験は、中間試験および期末試験を実施し試験時間は50分とする。						

授業科目名（必修）	建築計画Ⅰ		担当教員の実務経験	有		無	
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年	
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	64 時間			
< 授業の達成目標 > 1) 建物を具体的に創造する過程の科目として，建築計画を履修する。 2) 構造計画や設備計画の諸計画等と連携を図る。 3) 敷地計画・配置計画・平面計画・断面計画や防災計画等について，基礎基本を理解させる。							
< 授業内容 > 建築計画の基礎的な知識を下記のビルディングタイプ別に修得する。 1) 建築計画の進め方 2) 独立住宅（基礎的な知識、設計課題）							
< 評価方法 > 1) 定期考査による成績で評価する。 2) これらの成績と課題の提出状況や提出内容で評価する。 3) 授業の態度や出席状況で評価する。							
キーワード	寸法、面積、動線、エスキス						
教科書	「やさしい建築計画」（学芸出版社）						
参考書	「最高にわかりやすい住宅の間取り教室」（エクスナレッジ）						
関連科目	建築設計製図Ⅰ、建築CAD設計演習Ⅰ						
連絡事項	定期試験は、中間試験および期末試験を実施し試験時間は50分とする。						

2021年度 授業シラバス

授業科目名（必修）	建築史	担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年	開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	64 時間
< 授業の達成目標 > 1) 様々な建物に体现されている様式と技術を歴史の流れに沿って学び、建築とは何であるかを学習する。 2) 各国、各時代の社会的・文化的背景に基づく建築様式や、技術の変遷発展の実相を考察し、現代の建築の立場を理解させる。 3) 以上の理解に基づき、これからの建築に対する識見と激しい技術革新の時代における歴史との融和をどのように図るかを考察させる。				
< 授業内容 > 1) 日本建築史 ・ 古代神社建築・古代寺院建築・平安・鎌倉時代の寺院建築・安土桃山・江戸時代の住宅建築 2) 西洋建築史 ・ 古代ローマ建築・ロマネスク、ゴシック建築・ルネサンス、バロック建築・新古典、歴史主義建築 3) 近代建築史 ・ 近代建築の発生事情とその後の経過・過去の様式からの離脱と近代建築様式の形式、主要建築家の具体的業績・世界における現代建築の状況一般				
< 評価方法 > 1) 定期考査による成績を 8 0 % で評価する。 2) 課題の提出状況や提出内容を 2 0 % で評価する。				
キーワード	建築様式			
教科書	「図説 建築の歴史」（学芸出版社）			
参考書				
関連科目	建築計画ⅠⅡ			
連絡事項	前後期に中間試験および期末試験を実施する。試験時間は 5 0 分とする。 （配布資料の持込みについては不可とする）			

授業科目名（必修）	構造力学Ⅰ		担当教員の実務経験	有		無
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	64 時間		
< 授業の達成目標 > 1) 構造力学は自分で意欲を持って積極的に取り組むことが大切。 2) 構造力学Ⅰでは、主に静定構造物の力の釣り合いと応力計算について学ぶ。 3) 多くの練習問題に時間をかけながら、問題を解くことにより、理解を深める。						
< 授業内容 > 1) 力の基本、力の合成と分解(5 0 分× 9 コマ) 2) 力の釣り合い(5 0 分× 6 コマ) 3) 構造物の判別(5 0 分× 2 コマ) 4) 構造物と荷重及び外力(5 0 分× 3 コマ) 5) 静定構造物の反力算定について(5 0 分× 2 0 コマ) 6) 静定構造物の梁の応力算定について(5 0 分× 1 3 コマ) 7) 静定構造物のラーメンの応力算定について(5 0 分× 1 3 コマ) 8) 静定構造物のトラスの応力算定について(5 0 分× 1 5 コマ)						
< 評価方法 > 1) 定期考査による成績を 8 0 % で評価する。 2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を 1 0 % で評価する。 3) 授業態度や出席状況を 1 0 % で評価する。						
キーワード	ラーメン、トラス					
教科書	「図説 建築構造力学」（学芸出版社）					
参考書						
関連科目	建築一般構造、建築構造設計					
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し試験時間は 5 0 分とする。 （配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する）					

授業科目名（必修）	建築一般構造	担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科1年	開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	96 時間
< 授業の達成目標 > 1) 建築物がどのように構築されているかを形式別に学ぶ。 2) 木構造の特徴と構造の手法を学ぶ。 3) 鉄筋コンクリート構造の特徴と手法を学ぶ。 4) 鉄骨構造の特徴と手法を学ぶ。 5) その他の構造についても特徴と手法を学ぶ。 6) それぞれの構造に共通する仕上の手法を理解する。				
< 授業内容 > 1) 建築構造の概要 2) 木構造：特徴と構造形式、軸組構法、枠組壁工法、大断面集成材を用いた構造 （前期中間試験・前期末試験） 3) 鉄筋コンクリート構造：特徴と構造形式、配筋、基礎や主体の構造 4) 鉄骨構造：特徴と構造形式、接合、骨組 5) その他の構造： 補強コンクリートブロック造・プレストレストコンクリート構造 6) 仕上げ：外部仕上げ、内部仕上げ、開口部の仕上げ （後期中間試験・後期末試験）				
< 評価方法 > 1) 定期考査による成績を 80 % で評価する。 2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を 10 % で評価する。 3) 授業態度や出席状況を 10 % で評価する。				
キーワード	木材、鉄、セメント、コンクリート、シェルター			
教科書	「初めての建築一般構造」（学芸出版社）			
参考書				
関連科目	建築材料、建築構造設計、建築施工ⅠⅡ			
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し試験時間は50分とする。 （配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する）			

授業科目名（必修）	建築材料		担当教員の実務経験	有		無
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	34 時間		
< 授業の達成目標 > 1) 建築物は、地震や台風、火災などに強く、機能性や快適性に優れ、耐久性や経済性に優れていなければならないことを理解する。 2) 各種建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法を理解する。						
< 授業内容 > 1) 建築材料総論 建築における材料の選択と使用方法など 2) 木質材料 木質材料の建築材料としての基本的な特性（強度、劣化、耐久性、耐火性、乾燥、欠点） 3) コンクリート セメント、骨材、混和剤の特性、コンクリートの組成と特徴、力学的・物理的特性、コンクリート製品 4) その他の材料 金属材料、石材、ガラス、セラミック等の用途と製品、それぞれの材料の特性、要素としての工夫						
< 評価方法 > 1) 定期考査による成績を 8 0 % で評価する。 2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を 1 0 % で評価する。 3) 授業態度や出席状況を 1 0 % で評価する。						
キーワード	S I 単位、エネルギーの吸収・変形、許容応力度					
教科書	「図説 やさしい構造設計」（学芸出版社）					
参考書	「最新建築構造設計入門」新訂版（実教出版）					
関連科目	構造力学、建築材料、建築一般構造、建築施工					
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し試験時間は 5 0 分とする。 （配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する）					

授業科目名（必修）	建築施工Ⅰ		担当教員の実務経験	有		無
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	64 時間		
< 授業の達成目標 > 建築ができるまでの流れや注意すべき項目、工法や安全性など多岐に渡る内容を理解する。 1) 建築工事の流れを理解する。 2) 建築施工の各種業務内容を理解する。 3) 建築工事費を算出する方法を理解する。 4) 施工計画の意義を理解できる。 5) 施工管理の内容を理解できる。						
< 授業内容 > 1) 建築施工とは 建築に携わる人々、建築工事の流れ 2) 工事契約、積算 請負契約方式、契約書類、積算の種類、積算方法 3) 施工計画 工程計画、仮設計画、工法計画、労務計画、安全衛生計画、品質計画、環境保全計画 4) 施工管理 品質管理、工程管理、安全管理、原価管理、環境管理 5) 地盤調査、測量						
< 評価方法 > 1) 定期考査による成績を 8 0 % で評価する。 2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を 1 0 % で評価する。 3) 授業の態度や出席状況を 1 0 % で評価する。						
キーワード	建築工事共通仕様書、建築主、施工者、現場代理人					
教科書	「建築施工」（井上書院）、「建築積算」（社団法人日本建築積算協会）					
参考書	建築工事共通仕様書（国土交通大臣官房官庁営繕部）					
関連科目	建築材料、建築一般構造					
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し、試験時間は 5 0 分とする。（配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する）					

授業科目名（必修）	建築法規Ⅰ		担当教員の実務経験	有		無	
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年	
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	32 時間			
< 授業の達成目標 > 1) 建築基準法の構成と内容を理解する事ができる。 2) 建築基準法の用語を理解できる。 3) 条文を理解し、適法に判断が出来る。 4) 条文を理解し、適法な建築計画が出来る。							
< 授業内容 > 1) 法令の基本と建築基準法の概要 2) 建築関連の用語の定義 3) 積・高さ等の算定方法 4) 認制度等・制度規定 5) 一般構造及び建築設備 6) 造強度 7) 火規定 8) 難規定							
< 評価方法 > 1) 定期考査による成績を 8 0 % で評価する。 2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を 1 0 % で評価する。 3) 授業の態度や出席状況を 1 0 % で評価する。							
キーワード	建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法、建設業法						
教科書	「建築法規概論」（実教出版）、「建築関連法令集 法令編」（総合資格学院）						
参考書	「最新建築法規入門」（実教出版）						
関連科目	建築計画ⅠⅡ、建築一般構造、建築構造設計						
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し、試験時間は 5 0 分とする。（配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する）						

授業科目名（必修）	建築測量		担当教員の実務経験	有		無	
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期	通年	
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	51 時間			
< 授業の達成目標 > 1) スチール・エスロン・巻尺・TSを使って二点間の距離が測れる。 2) 10秒読みTS・トランシットを使って磁北、方位角、及び内角（単測法・方向角法）を測れる。 3) TSを用いてトラバース測量を行い、内業として計算（緯距・経距・閉合差・調整・面積計算）し、図表に表示できる。 4) 自動レベルを用いた水準測量により、後視・前視の読み取りができ、土地の高低差を実測できる。 5) 平板測量で土地の形状を表示し、面積が計算できる。							
< 授業内容 > 1) 測量の概論 2) 測量機械 3) 距離測量－TSによる距離測定、スチールテープ・エスロン・巻尺による距離測定 4) 平板測量－放射法、地形図、土地面積、三斜法、座標法 5) 角度の測量－TS・トランシットの設置方法、水平角の測定方法、鉛直角の測定方法、方位角の測定、磁北 6) 水準測量－土地の高低差、野帳・観測手簿、器高式、昇降式、ベンチマーク、中間点 7) トラバース測量－方向角、水平角、座標値の計算、誤差の調整 8) 面積計算－座標法による計算、三斜法による計算							
< 評価方法 > 授業への参加状況（授業態度を含む）20%、実技試験40%、定期試験40%とし総合的に評価する。							
キーワード	TS測量 水準測量 平板測量						
教科書	「建築テキストシリーズ 図説 建築測量」（産業図書）						
参考書	随時資料を配布						
関連科目	建築施工						
連絡事項	実習中は実習服を着用すること。						

授業科目名（必修）	建築実務		担当教員の実務経験	有		無
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	148 時間		
< 授業の達成目標 > 1) インテリアコーディネータの実務について学ぶ。 2) 建築意匠設計の実務について学ぶ。						
< 授業内容 > 1 年前期 1) インテリアコーディネータに関する基礎的事項 2) インテリアコーディネートに関する演習（プレゼンボードの作成） 1 年後期 1) 建築意匠に関する理論						
< 評価方法 > 授業への参加状況（授業態度を含む、20％）、各提出物の評価（80％）を総合的に評価する。						
キーワード	インテリアコーディネート、建築意匠、都市計画					
教科書	随時プリントを配布					
参考書	なし					
関連科目	建築設計製図ⅠⅡ、建築計画ⅠⅡ					
連絡事項						

授業科目名（必修）	一般教養		担当教員の実務経験	有		無
対象学科・学年	建築デザイン学科1年		開講時期	前期	後期	通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	7345 時間		
< 授業の達成目標 > 1) パソコンを扱う上で必要となる基本的な操作方法を理解する 2) ネットワーク環境の理解と周辺機器への接続方法の理解する 3) ソフトウェアのインストール、ダウンロード基礎知識を理解する 4) 各Officeソフトを操作することで、それぞれの特徴を理解する 5) Googleツールの理解と活用法を理解する						
< 授業内容 > 1) マウス操作、キーボード入力扱い方、Windowsの内容、基本操作 2) インターネット接続、プリンター接続、その他周辺機器等接続、扱い方を説明 3) OSの説明・アップデート方法、各ソフトウェアのインストールと削除、データの扱いを説明 4) Word、Excel、PowerPointを用いて、計算書類、ビジネス文章、プレゼン資料の作成を学ぶ 5) Googleツールを利用して学級運営の説明、Googleアカウント設定、Googleカレンダー利用、Todoリスト活用、Googleクラスメート普及						
< 評価方法 > 随時 Officeソフトに関して各章ごとに演習課題を実施し理解度の確認を行い、 その他授業への参加状況（授業態度を含む、20％）、 各提出物の評価又は、定期考査による成績（80％）を総合的に評価する。						
キーワード	Officeソフト、Windows、Word、Excel、PowerPoint、Googleツール					
教科書	随時資料を配布					
参考書	できるシリーズ（Word・Excel・PowerPoint）2019 （株）インプレス					
関連科目	建築計画Ⅰ、卒業設計、自由研究					
連絡事項	各個人所有のパソコンを準備の上、 Windows他、Officeソフトをインストールしておくこと					